



◆生育状況

1. JA管内 ふじ生育

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3/28	4/9	4/23	4/26	5/2
令和6年	4/1				
令和5年	3/22	3/31	4/12	4/17	4/22
令和4年	3/29	4/9	4/21	4/23	4/28
令和3年	3/22	3/31	4/17	4/21	4/26

◆当面する重点事項

1. 春季でも干ばつ対策は必要です。晴天が続き乾いている場合は、定期的なかん水により開花・結実を助ける。
2. コンフューザーRまたはナシヒメコンを適期に設置する。
スモヒメシンクイは4月から活動を開始するので、設置が遅れないようにする。
3. 腐らん病の早期発見、早期治療に努める。枝腐らんは葉が茂る前が見つけやすい。
4. うどんこ病は、見つけしだい先刈りを行うことが最も重要。(枝は多めに切除)
5. 第3回目(開花直前)・第4回目(落花直後)の薬剤散布を適期に実施する。
6. 腋芽花(2年枝)の花摘みを徹底励行して来年の花芽を確保し、連年均産に努める。
7. 人工受粉を徹底し、結実・品質を安定させる。開葯所を積極的に利活用する。
8. 薬剤による摘花・摘果を実施し、摘果作業の早期化、省力化を図る。
9. 落花後に受粉樹(メイポールなど)のせん定を行う。
10. カルシウム欠乏対策が必要な場合は、カルシウム葉面撒布肥料を散布する。

◆第3回(開花直前)の薬剤散布について

1. 散布時期：ふじの開花始めに散布する。(1~2輪咲いた頃) 散布日 月 日
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
ロムダンフロアブル	33ml	ハマキムシ類・ケムシ類・キンモンホリガ・キンモンハモグリガ	前日
ユニックス顆粒水和剤47	50g	黒星病・うどんこ病	14日

3. 散布量：10a当り=400ℓ以上

4. 留意事項

- ①黒星病対策として、第3回と第4回の防除間隔は10日間とし、開花中でも散布を行う。
降雨があると孢子が飛散し濡れ時間が長いと感染しやすくなる。平均気温が10度を超え、一旦気温が低下し、再度10度を超えた降雨の日に孢子が飛散する。
- ②ミツバチ、マメコバチ等訪花昆虫が活動する時期のため、記載の殺虫剤以外は使用しない。
- ③展着剤+ロムダンフロアブルに代えて、カスケード乳剤2,000倍(水1000ℓ当り50ml)を使用しても良い。
- ④ユニックス顆粒水和剤47に代えてミギワ20フロアブル4,000倍(水1000ℓ当り25ml)を使用してもよい。

◆第4回落花直後（中心花）の散布について

1. 散布時期：開花中であっても、前回10日後以内を厳守して散布する。 散布日 月 日

2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
㊦カナメフロアブル	25ml	黒星病・赤星病・うどんこ病	前日

3. 散布量：10a当り＝4000ℓ以上

4. 留意事項

- ①適期を守り散布量を増やして中心花の付け根（果実が肥大する所）によく掛かるよう散布する。
- ②殺菌剤の効果を高めるため、展着剤に代えて、機能性展着剤ドライバー1,000倍（水1000ℓ当り100ml）を使用してもよい。
- ③ミツバチ、マメコバチ等訪花昆虫が活動する時期のため、記載の殺虫剤以外は使用しない。
- ④アブラムシの発生が心配される場合は、ウララDF4,000倍（水1000ℓ当り25g）を加用散布する。
- ⑤ハマキムシ・ケムシ類（マイマイガ）の発生が多い場合は、バイオマックスDF3,000倍（水1000ℓ当り33g）を加用散布する。

◆薬剤による摘花摘果技術について

1. 石灰硫黄合剤による摘花方法

- ①散布時期：中心花の満開2日後と、その散布の2日～3日後の2回散布する。
（開花が早い中心花の花弁が、たたくと1～2枚落ちる頃。花弁が多く落ちる頃では遅い。）

散布日 月 日 散布日 月 日

- ②調合量：100倍液（高温時120倍液）
- ③散布量：10a当り300～400ℓ。
- ④散布方法：蕾を含め花そう全体に充分かける。S.Sは風圧を下げてフンワリ散布する。
- ⑤使用上の留意点

- ・「受精結実」＝受精は花粉が柱頭についてから48時間で60%、72時間で70%以上完了するが、気温の影響も大きい（低温時は長くかかる）。※人工受粉すれば2日でよい。
- ・温暖無風な日中（午前9時以降～3時）に散布する。（気温15度を超えた時）
早朝や低温時など、樹体温が低く薬剤が乾きにくい状態での散布は避ける。
※散布5日前以内に霜があり、花が痛んでいるときは散布を中止する。
- ・展着剤は不要。倍率は100倍より濃い濃度にならないように注意。
- ・極端に弱い樹や極端に枝が混んだ乾きにくい園はサビが出ることがあり注意する。
- ・スピードスプレー散布は風量を落とし、花弁が柱頭を包まないように配慮する。

2. ミクロデナポン水和剤85による摘果（生理落果）方法

果実の生育差が大きい・着果数が少ない場合は効果が低下しやすい。

- ①散布時期：（ふじ）残す果実の横径10[㍉]未満（8～9[㍉]）で散布する。
シナノスイート（成木）・シナノゴールド（成木）＝満開後2週間～3週間
早い時期のほうが落果効果が高い。
紅玉＝満開後2週間～3週間（紅玉 果実の横径18～20[㍉]の頃）
展着剤は普通濃度使用又は使用しない。

散布日 月 日

- ②調合量：摘果剤 ㊦ミクロデナポン水和剤85 ⇒ 1,200倍（水1000ℓ当り83g）
補助剤 アプローチBI ⇒ 500倍（水1000ℓ当り200ml）
- ③散布量：10a当り400～500ℓ。十分な量を散布しないと効果が出ない。
- ④使用上の留意点

- ・「つがる」「秋映」「祝」は過剰摘果の危険があるので注意する。

- ・乾燥状態では効果が低いので、乾燥しているようならば散布前に灌水を実施。
- ・結実が悪い園・樹は散布しない。
- ・試行技術として、ふじではアプローチB Iに代えて、アミノベスト1,000倍（水100ℓ当り100ml）を使用してもよい。
落果しにくい、シナノスイート・シナノゴールドは、マイクロデナポン水和剤+アプローチB I +アミノベスト1,000倍で使用してもよい。
店舗では、取り寄せとなる場合があるため、使用する場合はお早めにJAファーム等まで。

◆草生園・成り疲れによる衰弱園の生育初期樹勢維持葉面散布について

1. 使用する葉面散布用液肥 以前配布した別紙参照。不明な点は、果樹技術員までご相談下さい。
2. 凍霜害にあった場合は、傷口が回復するまで葉面散布を控える。

◆早生・中生種への施肥について（新しい化栽培を除く）

1. 施肥時期：4月下旬まで
2. 資材名と施肥量：有機専科 2袋/10a
3. 注意事項
 - ①玉伸びに効果のある施肥時期となる。
 - ②有機専科に代えてノルチッソ1袋でも良い。なお、水に溶けやすいので雨の前には施用しない。
 - ③植え付け3～4年目頃より施肥を開始する。

◆長野県オリジナル品種の摘花のポイントについて

どの品種も中心花を残したい。

1. 秋映：一輪摘花を行う。サビ果防止と霜害に強くなる（育成者 小田切氏談）。
2. シナノスイート：弱樹勢樹では、えき芽花の摘花を必ず行う。弱らすと回復しない。
3. シナノゴールド：開花期が長いので、遅く咲く花は摘花し、小玉・未熟果を減らす。
4. シナノドルチェ：年成りしやすいので、早めに摘花を行う。
5. シナノリップ：開花期が長い。遅く咲く花は熟期が遅れるので摘花する。

◆新しい化栽培の管理について

1. 摘花
 - ①本植えた1年生の樹から成木まで、出来るだけ早く摘花摘果を行う。
 - ②1年生の樹は、なり癖をつけるために1輪摘花（果）を行い、新梢の伸びが停まったら全摘果する。
 - ③2年目からは年なり防止と玉肥大の為に早めの1輪摘花（果）を行う。
 - ④新梢の伸びが良いところは2年枝へも着果させ、新梢の伸びを抑える。
2. 誘引：フェザー（特に太い下枝）が水平または斜め下向きある場合は、先端が下向きになるように誘引し、新梢の伸びを抑える。
3. 固定：主幹をしっかりと支柱で固定し、折れないように曲がらないようにする。
4. 根切り：花が咲かなかつた場合は樹勢が強くなるので、根切りを実施する。
5. かん水と除草：春は乾燥しやすい。特に3年生ぐらいまでは管理を徹底する。

◆人工受粉は何を重点に行うか・花粉の取り扱いが肝心

人工受粉を行わないりんごは変形果率が高く贈答用に向かない。「高く売れるりんご」作りを徹底したい。

1. 留意点

- ①保管 高温・多湿・直射日光に極めて弱い。乾燥した日陰で保管。
雨降り日に常温状態におくと2～3日で発芽率30%以下になる。
- ②条件 朝夕寒い場合や、極端に暑い場合は行わない。

- ③開花後3日は受精能力が高い。
- ④綿棒1回の花粉づけで50～60花できる。
- ⑤綿棒は数本用意し、ベタついたら交換して中性洗剤でよく洗い、乾かしてから再度使用する。
- ⑥日光があたらないように広口ビンに銀紙を巻き、余った(湿った)花粉は元の袋に戻さない。
- ⑦花芽の状態が悪い園は2度～3度実施したい。

2. 品種の結実率

◎90%以上 ○60%以上 △30%以上 ☆交雑和合性あり

♂受粉樹 ♀交配種	祝	つがる	紅玉	ふじ	王林	陽光	秋映	シノ ゴールド	メイ ポール	M9
シナノリップ		☆	☆	☆	☆		×	×	☆	☆
つがる	◎	×	◎	○	○	○	☆	☆	☆	☆
紅玉	○	○	×	○	○	◎	☆	☆	☆	☆
ふじ	○	◎	○	×	◎	○	☆	☆	☆	☆
秋映	☆	☆	☆	☆	☆	☆	×	×	☆	×
シナノスイート	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
シナノゴールド	☆	☆	☆	☆	☆	☆	×	×	☆	×

3. 受粉樹品種の花粉量と発芽可能温度

近年の研究で、受粉樹品種の資質が明らかになってきました。参考にして下さい。

上から、花粉量の多い品種から記載。開花が交配品種より遅い受粉樹は、越冬花粉向き。

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武(篠ノ井西部): 080-1202-0260 / 外谷(篠ノ井東部): 080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更): 090-7179-9866 / 伊藤(松代): 080-2239-6816

松橋(川中島): 090-4816-6297 / 根津(更北) 080-1203-8576

松澤(若穂) 080-1191-5166 / 寺澤(全域・情報担当・編集): 080-1188-5229

吉澤(全域・情報監修): 090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務) 松坂(篠ノ井西部) 080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所): 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課: 299-3311